

# 日本地域学会ニューズレター

平成 19 年 no.1

平成 19 年 1 月 31 日

## 目 次

I. 会長挨拶	...	2
II. 総会報告	...	3
千葉商科大学で開催された日本地域学会総会についての報告		
III. 理事会報告	...	4
平成 18 年度第 5 回・第 6 回理事会及び平成 19・20 年期新理事会についての報告		
IV. 編集委員会報告	...	5
機関誌編集委員会 第 8 回～第 10 回についての報告		
V. 役員人事等	...	6
VI. 平成 19 年度 日本地域学会 会費納入のお願い	...	9
平成 19 年度会費請求額, さらに会費早期納入の特典について		
VII. 第 44 回日本地域学会年次大会 (平成 19 年 10 月 6-8 日)	...	10
論文報告の募集, シンポジウムについて		
VIII. PRSCO 大会	...	11
IX. 学会賞 授賞者選考候補者推薦の募集	...	12
X. 会員の移動	...	13
『地域学研究』バックナンバー申込書	...	15
正会員入会申込書	...	16

## I. 会長挨拶

平成 19 年 1 月 12 日  
日本地域学会  
会長 熊田 禎宣

対話喪失がもたらす日本病を治す公共選択の場づくり

ヒトという動物は生存する活動環境に適応して心づくりを生涯にわたって続ける真の生涯学習の生命として進化してきた。ヒトが活動するための知的情報処理を情緒による行動選択を含めて実行できる「心」という統括システムを発達させて人間となった。心を育成する学習は心身脳の全体を駆使して生存を確保するための体軀学習によってやってきた。ヒトとして整備された心は既に獲得した知識を出力して対応する能力よりは、新しい活動環境に適応し、まだ身につけていない活動計画を創出する「入力能力」を高めることにより、自然と人間から発生するリスクに満ちた活動環境で生存確率を高めて現在の人間になったのだ。進化の困難な道程を切り拓いた主な能力は知的創造の源となる入力能力であった。近代になって心づくりの学習の大部分は言語による知識の伝達で支えうるとの誤解が日本社会を支配しはじめた。その結果、個人がその個性を最適に発言できるよう自らの心を心身脳をフルに働かせて開発できる活動を体軀する「育児の場」が喪失するままに放置された。

最強の学習システムは生活の場であった地域社会そのものであった。全構成員の直接のコンタクトを含む対話に満ちた地域社会は都市化の進展により都市地域には移植されなかった。新しく地域社会の構成員として育つ若人に対し、対話の作法や地域の文化を教える機能を持ち、新世代づくりの学習道場となっていた場、それは多様で多年時にわたる青少年を含む集団や組織の活動であったが、偏差値教育の支障になると敵視され是絶滅しかかっている。地域社会の多数の構成員から尊敬され指示されていた寺子屋や塾の師範は人生の名人で対話の先生でもあったが教員免許を持った知識の伝達人たる教師により絶滅させられて久しい。土農工商の全領域で豊かで

なくとも助け合って真剣に生きていた家族というヒューマンコミュニケーションの道場は偏差値教育に次世代の若人を追いやる要求や指示が中心の場となった。

心の接触をともなう対話の場は上述の四つの場が主要であったが、これらの心づくりの学習メカニズムが近年になって劣化し続けている。富国強兵の管理社会の兵士づくりに適している偏差値教育を過信し若人をその型にはめることに熱中する社会になってしまった。対話による入力能力を育成する多様な心づくりの実践の場を捨て、学校という密室空間における偏差値教育で出力能力を増強する場に置き換えたのだ。ヒトという動物は心の接触による言語を駆使した対話によって社会性動物の学習機能を開花させて発揮し、生命界の最高の知性を誇る知的生命として進化してきた。対話の劣化や喪失はヒトのコミュニケーションチャンネルを破壊して社会のベースを傷つける。ヒトではない動物に育てられた人間がきわめて短命に終わることなど、対話の欠如は寿命にも影響することが知られている。未成熟な学童の自殺、子の親殺し、親の子殺しなどの家族殺しが頻発している実態は、「対話による入力能力」づくりの道場として機能し、真の社会生命として生活できる入力能力を育てる場が社会から失われていることの証明であろう。この日本病は深刻である。新しい教育基本法や「ヤラセの官・ツ対話」では治せない。万機公論による地域づくりの公共選択の合意を創出する対話を積み重ねて対話不足を解消したい。

学問の世界では、Science for Society(社会のための科学)の実現が強くうたわれて 10 年を超える。この新しい科学活動のあり方を求める人材の育成は科学者達の心の対話を基礎にして成り立つ。多領域、多世代、多地域のバラエティに富んだ研究者によって構成されているこの学会が市民のニーズによる革新 Customer-Centered Innovation(CCI)としての科学活動にコミットするなら、対話に富んだ場を多様に活用する新しい公共選択の方法を、深く病んでいる日本社会に提案することから着手すべきであろう。

## II. 総会報告

標記総会が、去る平成 18 年 10 月 8 日(土)13:00 より千葉商科大学図書館 5 階会議室で行われました。まず、はじめに日本地域学会会長(熊田禎宣 千葉商科大学 教授)挨拶の後、外国からの来賓代表として、Prof. Dr. Antoine Bailly 氏よりご挨拶戴きました。この後、熊田会長を議長として下記の通り審議と報告が行われました。

### 議題

#### 1) 新入会員・退会希望者の承認

この件について氷鉤総務担当常任理事より報告があり、61名の正会員(個人会員)と法人会員1団体の入会及び30名の正会員の退会を承認。

#### 2) 名誉会員の承認

この件について熊田委員長より、山村悦夫元会長、関根正行元理事が推薦され、これを承認。

#### 3) 平成 17 年度の収支決算の承認

この件について加賀屋財務担当常任理事より報告があり、萩原監事より適正に処理されていることが報告され、これを承認。

#### 4) 平成 18 年度の収支予算(案)の承認

この件について加賀屋財務担当常任理事より予算案が提案され、これを承認。

#### 5) 平成 19・20 年任期理事候補者の承認

この件について氷鉤総務担当常任理事より、郵便投票結果に基づく候補者原案が提案され、原案のまま承認。

#### 6) 第 44 回(2007 年)年次大会の開催地、開催校等の承認

この件について氷鉤総務担当常任理事より、九州大学で 10 月初旬の予定で行うことが報告され、これを承認。

#### 7) 第 45 回(2008 年)年次大会の開催地、開催校の取扱いの承認

この件について氷鉤総務担当常任理事より、東日本で候補を選定中であることが報告され、今後の取り扱いについては事務局に一任することを承認。

#### 8) 会則の改定

この件について氷鉤総務担当常任理事より、事務局住所変更等の趣旨説明があり、これを承認。

#### 9) その他

なし

### 報告事項

#### 1) 新入会員キャンペーンの継続

#### 2) 『地域学研究(36 巻)』の編集

#### 3) RSAI の動向

#### 4) PRSCO の動向

#### 5) 学会賞選考委員会について

#### 6) その他

この後、2006 年度第 15 回学会賞の授与式が執り行われました。藤岡明房委員長より経過報告の後、熊田会長より下記会員に各賞が授与され、受賞者よりご挨拶いただき、総会は無事閉会しました。

#### 功績賞 該当者なし

論文賞(第 15 号)阿部 宏史「地域産業連関分析による地域経済及び環境負荷の変動要因に関する研究」

論文賞(第 16 号)有吉 範敏「日本版環境経済統合勘定の開発とその環境政策分析への適用」

奨励賞(第 26 号)櫻井 一宏「日本海へ流入する陸域起因汚濁負荷削減政策の動学分析」

奨励賞(第 27 号)鈴木 聡士「AHP クラスタ分析を活用した PI 支援システムの提案 - 北海道白老町第四次総合計画への応用 -」

奨励賞(第 28 号)吉田 大悟「リスクコミュニケーションの科学知識創造の社会的責務と公共選択のモデルチェンジ」

奨励賞(第 29 号)篠崎 剛「関税による援助: 動学的視点による再考」

著作賞(第 18 号)実積 寿也「IT 投資効果メカニズムの経済分析」

## III. 理事会報告

平成 18 年度 日本地域学会 第 5 回理事会

日 時: 平成 18 年 10 月 7 日(土) 10:30-12:00

場 所: 千葉商科大学本館 3 階会議室

出席者: 熊田, 藤岡, 氷鉤, 加賀屋, 有吉, 白井, 河村, 酒井, 多和田, 原, 細江, 三橋, 光多, 三友, 宮城, 宮田, 山村の各理事(ただし, 浅見, 今泉, 河野, 斉藤, 高橋の各理事より委任状付託); オブザーバとして福井監事, 太田広報副委員長, 小林, 櫻井, 澁澤, 水野谷の各幹事; 坂田事務局秘書

#### 議題

##### 1. 新入会員・退会希望者の承認

前回理事会以降, 申込のあった12名の正会員(個人会員), と法人会員1団体の入会, 及び6名の正会員の退会希望を審議し, 総会に諮る事を諒承。

##### 2. 平成18年度第43回年次大会の運営

これに関して熊田大会実行委員長と氷鉤総務担当常任理事より, プログラムの変更と総会式次第について説明があり, これを諒承。

##### 3. 平成19・20年期理事候補者名簿

これに関して氷鉤総務担当常任理事より郵便投票結果に基づく候補者について説明があり, これを原案として総会に諮ることを諒承。

##### 4. 年次大会次期開催地・開催校

これに関して氷鉤総務担当常任理事より, 次回は九州大学において実施する予定である旨説明があり, これを諒承。

##### 5. 年次大会次々期開催地・開催校

これに関して氷鉤総務担当常任理事より, 東日本で検討中であることが報告され, 今後のこの取り扱いについては事務局に一任することを諒承。

##### 6. 会則の改正

これに関して氷鉤総務担当常任理事より, 実態とそぐわない会則の一部を改正する会則について説明があり, これを総会に発議することを諒承。

##### 7. 平成18年度会費未納者についての措置

この件に関して氷鉤総務担当常任理事より, 例年通り推薦者を通して督促したい旨提案があり, これを諒承。

##### 8. その他

#### 報告事項

##### 1. 『地域学研究』第36巻の編集

##### 2. RSAIの動向

##### 3. PRSCOの動向

##### 4. その他

#### 平成18年度日本地域学会第6回理事会

日時: 平成18年12月17日(日) 13:00-14:30

場所: 日本交通政策研究会 会議室

出席者: 熊田, 藤岡, 氷鉤, 加賀屋, 有吉, 白井, 河村, 河野, 斉藤, 酒井, 多和田, 原, 細江, 光多, 三橋, 三友, 宮田の各理事(ただし, 青山, 浅見, 信国, 今泉, 高橋, 戸田, 宮城, 矢田, 山村の各理事より委任状付託); オブザーバとして福井監事, 近藤新理事; 澁澤, 水野谷の各幹事; 坂田事務局秘書

#### 議題

##### 1. 新入会員・退会希望者の承認

前回理事会以降, 申込のあった7名の正会員(個人会員)と法人会員1団体の入会, 及び5名の正会員と法人会員1団体の退会希望を審議し, 総会に諮る事を諒承。

##### 2. 第43回年次大会会計報告

熊田大会実行委員長より報告があり, これを諒承。

##### 3. 第44回(2007年)年次大会準備委員会の構成

細江大会委員長より提案があり, これを諒承。

##### 4. 第44回(2007年)年次大会の並行セッション及びシンポジウムの編成

細江大会実行委員長及び氷鉤総務担当常任理事よりシンポジウム企画及び大会レイアウト案の提案があり, これを諒承。

##### 5. 規程の制定

##### 1) 日本地域学会学会賞学位論文賞規程

2) 日本地域学会機関紙電子ジャーナル化に関する規程

##### 3) 日本地域学会会計規程

##### 4) 日本地域学会会計細則

##### 5) 日本地域学会機関紙出版事業準備金に関する規程

##### 6) 日本地域学会年次大会規程

##### 7) 日本地域学会年次大会開催費等に関する規程

氷鉤総務担当常任理事より, 上記規程に関する提案があり, これを諒承。今後, 修正があれば, 理事会にて検討する。

##### 6. 『地域学研究』セット販売の推進

##### 7. 新入会員勧誘キャンペーンの推進

##### 8. その他

#### 報告事項

1. 『地域学研究』第36巻の編集
2. RSAIの動向
3. PRSCOの動向
4. その他

平成19・20年度 日本地域学会 新理事会

日時: 平成18年12月17日(日) 14:30-15:00

場所: 日本交通政策研究会 会議室

出席者: 熊田, 藤岡, 氷鉤, 加賀屋, 有吉, 臼井, 河村, 河野, 酒井, 斉藤, 渋澤, 多和田, 原, 細江, 光多, 三橋, 三友, 宮田の各理事(ただし, 青山, 浅見, 木南, 高橋, 戸田, 松本, 萩原, 宮城の各理事より委任状付託); オブザーバとして福井監事; 水野谷幹事; 坂田事務局秘書

報告事項

1. 平成19・20年度理事会の構成

熊田会長及び氷鉤総務担当常任理事より, 新理事会の構成について報告があり, これを諒承。また, 今泉会員については新理事を辞退する旨報告があり, これを諒承。

議題

1. 平成19・20年度役員人事

新会長人事について審議の結果, 全会一致で熊田会員を会長として選出。その後, 新会長より, 藤岡会員, 加賀屋会員を副会長として, 氷鉤会員を副会長兼総務担当常任理事(事務局長)として, 有吉会員を財務担当常任理事として, 渋澤会員を庶務担当常任理事として, 福井会員及び富山会員を監事としてそれぞれ推薦する旨の提案があり, 審議の結果, 全会一致でこれらの提案の通り副会長および各常任理事を選出。これ以外の各種委員会の人事については熊田新会長および事務局に一任することを諒承。

2. その他

## IV. 編集委員会報告

平成18年度 日本地域学会 第8回編集委員会

日時: 平成18年8月20日(日) 13:00-15:00

場所: 日本交通政策研究会 会議室

出席者: 多和田, 有吉, 藤岡, 中川, 松本, 木谷, 木南, 氷鉤, 加賀屋, 三友, 光多の各編集委員(ただし, 高橋

委員より委任状付託); 櫻井, 渋澤, 水野谷の各幹事; 坂田事務局秘書

議題

1. 『地域学研究』第36巻掲載候補論文の選考

レフェリー評価による第36巻の掲載論文の選考が行われた。

2. 同上機関誌印刷方針

3. 同上機関誌書評応募函書の取扱い

4. その他

来年度からの電子ジャーナルの公開に向けて, 氷鉤編集総務より, 電子ジャーナル購読費に関する提案があり, これを理事会に諮ることで諒承。

平成18年度 日本地域学会 第9回編集委員会

日時: 平成18年11月12日(日) 12:30-14:30

場所: 日本交通政策研究会 会議室

出席者: 多和田, 有吉, 藤岡, 松本, 木南, 氷鉤, 加賀屋, 三友, 光多の各編集委員(ただし, 木谷, 高橋委員より委任状付託); 小林, 櫻井, 渋澤, 水野谷の各幹事; 坂田事務局秘書

議題

1. 『地域学研究』第36巻掲載候補論文の選考

レフェリー評価による第36巻の掲載論文の選考が行われた。

2. 『地域学研究』第37巻掲載候補論文の選考

レフェリー評価による第37巻の掲載論文の選考が行われた。

3. 日本地域学会機関誌編集委員会規程を改正する規程の発議

これに関して氷鉤編集総務より, 委員の構成に関する規程を改正する規程の発議の提案があり, これを諒承。

4. 機関誌印刷方針

5. 機関誌書評応募函書の取扱い

6. その他

氷鉤編集総務より RSAI バンガロール大会の Special Volume を企画する旨の提案があり, その編集責任者を P. Nijkamp に委嘱することを諒承。

平成18年度 日本地域学会 第10回編集委員会

日時: 平成18年12月17日(日) 10:30-12:30

場 所: 日本交通政策研究会 会議室

出席者: 多和田, 有吉, 加賀谷, 木谷, 木南, 藤岡, 水鉤,  
三友, 光多の各編集委員 (ただし, 高橋委員より委任  
状付託); 渋澤, 水野谷の各幹事; 坂田事務局秘書  
議題

1. 『地域学研究』第36・37巻掲載候補論文の選考

レフェリー評価による第36・37巻の掲載論文の選考が行われた。

2. 同上機関誌印刷方針

3. 同上機関誌書評応募図書取扱

4. その他

## V. 役員人事等

平成19・20年期 日本地域学会事務局, 各種委員会等の構成および交代についてお知らせいたします。

1. 日本地域学会事務局

会 長

熊田 禎宣 (千葉商科大学)

副会長

藤岡 明房 (立正大学)

加賀屋 誠一 (北海道大学)

水鉤 揚四郎 (筑波大学)

総務担当常任理事 (事務局長)

水鉤 揚四郎 (前出)

財務担当常任理事

有吉 範敏 (長崎大学)

庶務担当常任理事

渋澤 博幸 (豊橋技術科学大学)

理 事

青山 吉隆 (広島工業大学)

浅見 泰司 (東京大学)

臼井 功 (横浜国立大学)

河村 能夫 (龍谷大学)

木南 莉莉 (新潟大学)

河野 博忠 (筑波大学名誉教授)

近藤 光男 (徳島大学)

齋藤 参郎 (福岡大学)

酒井 泰弘 (滋賀大学)

高橋 秀悦 (東北学院大学)

多和田 眞 (名古屋大学)

戸田 常一 (広島大学)

富川 盛武 (沖縄国際大学)

萩原 清子 (佛教大学)

原 勲 (北星学園大学)

福岡 克也 (東亜大学)

細江 守紀 (九州大学)

松本 源太郎 (札幌大学)

光多 長温 (鳥取大学)

三橋 博巳 (日本大学)

三友 仁志 (早稲田大学)

宮城 俊彦 (岐阜大学)

宮田 譲 (豊橋技術科学大学)

監 事

福井 秀夫 (政策研究大学院大学)

富山 慶典 (群馬大学)

第44回年次大会準備委員会および実行委員会

委員長: 細江 守紀 (前出)

学術委員会

委員長: 細江 守紀 (前出)

副委員長: 水鉤 揚四郎 (前出)

副委員長: 藪田 雅弘 (中央大学)

広報委員会

委員長: 水鉤 揚四郎 (前出)

副委員長: 渋澤 博幸 (前出)

副委員長: 森島 隆晴 (敬愛大学)

名誉会員推薦委員会

委員長: 藤岡 明房 (前出)

副委員長: (空席)

機関誌編集委員会

委員長: 多和田 眞 (前出)

副委員長: 松本 昭夫 (中央大学)

*Managing Editor*: 水鉤 揚四郎 (前出)

学会賞選考委員会 (第16回)

委員長: 酒井 泰弘 (前出)

副委員長: (空席)

学会幹事 (会則第18条第6項)

(1) 事務局幹事

総務・財務・庶務担当常任理事付

水野谷 剛 (群馬県産業支援機構)

小林 慎太郎 (科学技術振興機構)

内田 晋 (筑波大学)

## (2) 委員会幹事

学術委員会

内藤 徹 (釧路公立大学)

田中 正秀 (筑波大学)

櫻井 一宏 (海洋政策研究財団)

名誉会員推薦委員会

水野谷 剛 (前出)

学会賞選考委員会

櫻井 一宏 (前出)

事務局 事務秘書

坂田 道子 (筑波大学 生命環境科学研究科 氷鉋研究室秘書)

事務局所在地

筑波大学 生命環境科学研究科 氷鉋研究室内

〒305-8572 茨城県つくば市天王台 1-1-1

tel:+81-29-853-7221(fax)

sec@jrsai.envr.tsukuba.ac.jp

## 2. 第44回(2007年)年次大会 準備委員会および実行委員会

今年度の年次大会は、九州大学(〒812-8581 福岡県福岡市東区箱崎6-19-1)で開催されます。主として、その開催準備の労をおとり頂く準備委員会委員の方々には以下の通りです。

委員長(準備委員長):

細江 守紀 (九州大学経済学部)

実行委員:

実積 寿也 (九州大学経済学部)

加河 茂美 (九州大学経済学部)

斉藤 参郎 (福岡大学経済学部)

有吉 範敏 (長崎大学環境科学部)

前田 純一 (広島修道大学経済学部)

秋山 優 (九州産業大学経済学部)

李 友炯 (九州工業大学工学部)

内藤 徹 (釧路公立大学経済学部)

なお、この他に学会役員および幹事が準備委員の

任に当たります。また、当日の実行委員会は上記準備委員会で構成します。

## 3. 学術委員会

委員長: 細江 守紀 (前出)

副委員長: 氷鉋 揚四郎 (前出)

副委員長: 藪田 雅弘 (前出)

委員:

有吉 範敏 (前出)

加賀屋 誠一 (前出)

渋谷 博幸 (前出)

高橋 秀悦 (前出)

多和田 眞 (前出)

戸田 常一 (前出)

宮田 譲 (前出)

幹事:

内藤 徹 (前出)

田中 正秀 (前出)

櫻井 一宏 (前出)

## 4. 広報委員会

委員長: 氷鉋 揚四郎 (前出)

副委員長: 渋谷 博幸 (前出)

副委員長: 森島 隆晴 (前出)

委員:

有吉 範敏 (前出)

加賀屋 誠一 (前出)

近藤 光男 (前出)(西部担当)

松本 昭夫 (前出)

松本 源太郎 (前出)(東部担当)

三友 仁志 (前出)

山崎 朗 (中央大学)

幹事:

事務局幹事

## 5. 名誉会員推薦委員会

委員長: 藤岡 明房 (前出)

副委員長: (空席)

委員:

有吉 範敏 (前出)

加賀屋 誠一 (前出)

渋澤 博幸 (前出)  
氷鉤 揚四郎 (前出)  
三橋 博巳 (前出)

幹 事:

水野谷 剛 (前出)

## 6. 機関誌編集委員会

委員長: 多和田 眞 (前出)

副委員長: 松本 昭夫 (前出)

編集総務 (*Managing Editor*): 氷鉤 揚四郎 (前出)

委 員:

有吉 範敏 (前出)  
加賀屋 誠一 (前出)  
木谷 忍 (東北大学)  
木南 莉莉 (前出)  
齋藤 参郎 (前出)  
渋澤 博幸 (前出)  
高橋 秀悦 (前出)  
中川 大 (京都大学)  
原 勲 (前出)  
藤岡 明房 (前出)  
光多 長温 (前出)  
三友 仁志 (前出)  
熊田 禎宣 (前出)(規程第3条第6号)  
細江 守紀 (前出)(規程第3条第6号)

顧 問:

Peter Batey (University of Liverpool)  
Kingsley Haynes (George Mason Univ.)  
Geoffrey Hewings (Illinois Univ.)  
Lars Lundqvist (Royal Inst. of Tech.)  
Gordon Mulligan (University of Arizona)  
Peter Nijkamp (Free Univ.)  
David Plane (Arizona University)  
Jacques Poot (University of Waikato)  
John Quigley (Univ. of California, Berkeley)  
Michael Sonis (Bar-Ilan University)  
Roger Stough (George Mason University)

## 7. 学会賞選考委員会

委員長: 酒井 泰弘 (前出)

副委員長: (空席)

委 員:

有吉 範敏 (前出)(規程第2条第1項第三号)  
加賀屋 誠一 (前出)(第二号)  
熊田 禎宣 (前出)(第一号)  
河野 博忠 (前出)(第六号)  
渋澤 博幸 (前出)(第三号)  
多和田 眞 (前出)  
Peter Nijkamp (前出)(第六号)  
萩原 清子 (前出)  
氷鉤 揚四郎 (前出)(第三号)  
細江 守紀 (前出)  
光多 長温 (前出)  
三友 仁志 (前出)

幹 事:

櫻井 一宏 (前出)

## 8. Council of the RSAI and Council of the PRSCO of the RSAI

(国際地域学会および同環太平洋地域学大会機構 理事会)

### **RSAI Council**

*Councillor:*

氷鉤 揚四郎 (PRSCO 選出)(前出)

### **PRSCO Council**

*Councillor & President*

熊田 禎宣 (前出)

*Councillor & Executive Secretary*

氷鉤 揚四郎 (前出)

*Councillor:*

多和田 眞 (前出)

宮田 讓 (前出)

## 9. 日本経済学会連合

評議員 (日本地域学会選出)

鐘ヶ江 秀彦 (立命館大学)

渋澤 博幸 (前出)

「日本経済学会連合 英文年報」への日本地域学会  
分の担当係

編集委員: 細江 守紀 (前出)

執筆担当: 渋澤 博幸 (前出)

## 10. 地理関連学会連合

担 当:

伊藤 達雄(名古屋産業大学)

藪田 雅弘(前出)

## VI. 平成 19 年度 日本地域学会 会費納入のお願い

日本地域学会 会員 各位

日本地域学会  
会長 熊田 禎宣

謹啓 貴会員におかれましては益々御健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、早速ですが、同封致しました請求書の通り、日本地域学会平成 19 年度会費をご請求申し上げますので、

納入期限 平成 19 年 3 月末日

までに同封の振込用紙にてお支払いいただけます様お願い申し上げます。

なお、預金口座引落しの手続きを平成 19 年 3 月 20 日までに完了された方には、平成 19 年 6 月 27 日に請求内容にしたがって引落しを行いますのでお早め手続きをおとり下さる様お奨め致します。

何かと出費のかさむ折から誠に恐縮ですが、事務処理の円滑化および再度にわたる督促の経費節減、さらに予想されます円安傾向の為替リスク回避のため上記期限までの早期納入にご協力いただけますよう、かさねてお願い申し上げます。

敬 具

1. 平成 19 年度 日本地域学会 会費等(適用期間限定)

(1) 平成 19 年度(平成 19 年 4 月 1 日 - 平成 20 年 3 月 31 日)

一般会員年会費 10,000 円(ユニバーサルメンバーシップカテゴリーでの RSAI 会員の会費 £8.0 Stg. を含む)

学生会員年会費 7,000 円

(2) *Papers in Regional Science* を印刷された形での購読希望の方の追加料金

一般会員 8,500 円

学生会員 3,500 円

(3) *International Regional Science Review* 誌(割引)購読料

IRSR 誌購読につきましては、1 年間に渡り交渉を続けてまいりましたが、何ら回答もないため、やむなく共同購入を中止することとなりました。会員各位には申し訳ありませんが、今後は各自で直接ご購入下さい。2006 年度分に関しましては、お預かりした購読料は 2007 年度日本地域学会会費の一部に充当させていただきたいと存じます。ご希望の場合はご連絡を頂ければ返金いたしますが、ご連絡がない場合はご承諾いただいたものとさせていただきます。IRSR 誌 2006 年度分のバックナンバーの購入方法につきましては、現在先方と交渉中です。

上記(1)および(2)の会費、購読料が適用されるのは、

(a) 納入期限: 平成 19 年 3 月末日までに上記会費を納入された日本地域学会 会員の方、または、

(b) 平成 19 年 3 月 20 日までに預金口座引落しの手続きを完了された日本地域学会 会員の方に限りますのでご注意ください。

## 2. 会費の期限内納入の特典

外国為替市場の成り行きが不透明な事もあって、上記の金額で期限を遅れて会費をご納入いただいても、著しく為替差損を生じ、これを日本地域学会の一般会計が負担しなければならない危険がかなり高いものと見込まれます。

日本地域学会 理事会では、この様な事を考慮して、上記納入期限に遅れた場合には、

(1) 一般会員年会費として 11,000 円を請求する。

(2) 学生会員年会費として 8,000 円を請求する。

(3) *Papers in Regional Science* を印刷物として購読希望の追加料金を一般会員は 9,500 円を請求する。

(4) 上記を学生会員は 4,500 円を請求する。

という事を理事会で決定致しております。この主旨をご理解いただき、会費関連の事務処理の円滑化、経費節減にご協力頂けますよう、事務局からも重ねてお願い申し上げます。

## VII. 第44回日本地域学会年次大会

(平成19年10月6(土)-8日(月))

### 論文報告の募集

平成19年度(2007年)日本地域学会第44回年次大会は、九州大学において下記の通り開催されます。

会員諸賢におかれましては、論文報告、特別セッションの編成等、奮ってご参加下さい。

### 記

開催日: 平成19年10月6日(土)-8日(月)

開催校: 九州大学

開催地: 〒812-8581 福岡県福岡市東区箱崎6-19-1

TEL, FAX: 092-642-2477

大会準備委員会 委員長: 細江 守紀 (九州大学経済学部教授, 日本地域学会理事)

#### 共通論題:

- (a) 地域および地球環境
- (b) 持続可能都市・地域システム
- (c) 都市・地域再生
- (d) 地方分権と地方財政
- (e) 地域情報化
- (f) 情報通信技術と空間経済
- (g) 環境政策
- (h) 水環境と流域管理政策
- (i) 道路交通とネットワーク
- (j) 総合政策評価
- (k) 産業集積と情報
- (l) 沿岸域管理と海洋政策
- (m) 中心市街地活性化
- (n) 多地域経済成長モデル

一般論題: 立地, 人口移動, 地域経済等の地域学一般の課題すべて

総会日時: 平成19年10月7日(日) 13:20- (予定)

(公開) シンポジウム日時:

平成19年10月7日(日) 14:30- (予定)

(公開) シンポジウム・テーマ: 道州制と地方分権

以上

[論文報告] を希望される方は、

- 1. 論文タイトル
- 2. 上記が和文の場合には、同英文訳
- 3. 著者名, 所属 (複数の場合には、発表者を明記)
- 4. 同上英文表記

5. Abstract: 和文(700字以内) および英文(200 words以内) の双方を提出

6. 対応責任者氏名, 連絡先住所, tel, fax, e-mail アドレス等

7. 希望討論者2名(会員に限る; 場合によっては、希望通りとならないことをあらかじめご承知おき下さい)

を明記して、また、

[特別セッション編成] を希望される方は、

- (i) セッションタイトルおよびセッションの意図, 内容等の概要(和文300字以内, 英文100words以内)
- (ii) 座長(1-2名の会員) 氏名, 所属, 同英文表記
- (iii) 1セッション当たり3-4編の報告を目途に、各論文についての上記論文報告希望に準ずるデータ。但し、討論者は各々の論文について1名でも可。

を明記して、e-mail, fax または封書等で奮ってご応募下さい(応募締切: 平成18年5月31日)。

問合せおよび論文報告等の応募は以下へお願いします。

氷鉋 揚四郎(ひがのようしろう)

日本地域学会

事務局長(総務担当常任理事)

筑波大学 生命環境科学研究科 教授

〒305-8572 つくば市天王台1-1-1

tel, fax: +81-29-853-7221

E-mail: sec@jsrsai.envr.tsukuba.ac.jp

## VIII. PRSCO 大会

第20回 PRSCO バンクーバー大会

(平成19年5月6日(日)-9日(水))

### 論文報告の募集

第20回 PRSCO 大会が、カナダバンクーバー市において下記の通り開催されます。PRSCO(Pacific Regional Science Conference Organization) 大会は、日本地域学会がメインとする国際会議であります。最先端・最新の研究成果を発表する場として、また若手研究者の研究報告や広く海外研究者との交

流の場として有効活用していただけます。会員諸賢におかれましては奮ってご参加ください。アブストラクト投稿, 参加登録, ホテル予約などは下記ホームページをご参照ください。

## 記

開催日: 平成 19 年 5 月 6 日 (日)-9 日 (水)

開催地: Westin Bayshore and Marina, Vancouver, BC, Canada

大会委員長: David W. Edgington (University of British Columbia)

メインテーマ: “Creative City Regions: Examining their Role in the Pacific Rim”

大会ホームページ:

<http://prSCO2007.confmanager.com>

アブストラクト提出締切: 2007 年 2 月 28 日(延長)  
以上

☆バンクーバー大会ツアーのお知らせ☆

日本地域学会事務局では、バンクーバー大会ツアーを企画しております。コース A では、5 月 4 日 (金) に東京成田を出発し、PRSCO 大会が始まる前にビクトリア市内視察、ホエールウォッチング、及びバンクーバー市内視察を行い、6 日の午後から PRSCO 大会に参加するツアーです。コース B は、PRSCO 大会のみの参加となります。参加ご希望の方は、2007 年 2 月 15 日までにコース A かコース B のどちらかを明記の上、日本地域学会事務局 ([higano@jsrsai.envr.tsukuba.ac.jp](mailto:higano@jsrsai.envr.tsukuba.ac.jp)) までご連絡ください (コース A については、専用バス・現地観光手配等の関係上、最低 10 名以上を予定しております。詳細については参加人数が把握でき次第、ご案内する予定であります)。

ツアーの概略 (予定)

<コース A >

5 月 4 日 成田発 — ビクトリア着

ビクトリア市視察, ホエールウォッチング,  
バンクーバー市内視察

※ ブリティッシュ・コロンビア州の州都ビクトリアは英国の雰囲気漂い、春にはさまざまな花が咲き誇る大変美しい町です。ホエールウォッチングの基地港としても知られています。バンクーバーはカナダ西海岸最大の活気にあふれた見所多い都市

です (ビクトリアからバスとフェリーの旅を楽しみながら移動します)。

5 月 6 日 -10 日 PRSCO 大会参加

5 月 11 日 バンクーバー発

5 月 12 日 成田着

<コース B >

5 月 6 日 成田発または関空発, PRSCO 大会参加

5 月 11 日 バンクーバー発

5 月 12 日 成田着または関空着

注 1 PRSCO 大会中のホテル宿泊については各自大会ホームページよりご予約ください。

注 2 コース B は航空券のみの手配となります (人数により送迎バスを手配)。

## IX. 学会賞 授賞者選考候補者推薦の募集

日本地域学会では、地域学 (Regional Science) の発展に貢献する優れた会員の業績をたたえる為、日本地域学会学会賞を毎年授与しています。

今年度も第 16 回日本地域学会 学会賞授賞者選考候補者の推薦の募集を行いますので、どうか奮ってご応募下さい。学会賞は以下の各賞からなります。

功績賞: 地域学の進歩および学会の運営に顕著な貢献をなした会員を表彰する。

論文賞: すぐれた研究論文によって地域学の発展に著しく寄与し、研究業績の意義や貢献が多である会員を表彰する。

奨励賞: 若手研究者ですぐれた研究論文を発表した会員を表彰する。

著作賞: 地域学の発展に著しく寄与し、その意義や貢献が多である著作物を表彰する。

学位論文賞: 本学会会員である博士または修士課程修了者がその修了要件として提出したすぐれた学位論文を表彰する。

功績賞・論文賞・奨励賞受賞者には賞状とメダルが、著作賞および学位論文賞受賞者には賞状が授与されます。

第 16 回日本地域学会学会賞 授賞選考候補者推薦  
応募要領

◇応募期限: 平成 19 年 4 月 14 日 (金) (事務局必着)  
◇応募方法: 功績賞への応募は他薦のみですが, 論文賞と奨励賞への応募は自薦, 他薦の別を問いません。

◇推薦資格: 推薦者は, 日本地域学会会員であることが必要です。

◇受賞資格等:

(1) 論文賞および奨励賞の表彰対象となる研究業績は, 過去 2 年間 (暦年) に発表したもので, その主たるものが本学会関連誌『地域学研究 (*Studies in Regional Science*)』および *Papers in Regional Science of the RSAI* に掲載されている論文であることが条件です。

(2) 奨励賞の応募については, 年令がその表彰対象となるべき主たる研究業績の発表当時 35 才未満であった事が必要で。

(3) 著作賞の表彰対象となる著作物については, 過去 2 年以内に出版もしくは公表された研究図書であることが条件です。

(4) 学位論文賞については, 表彰の時点において修了後 3 年以内のもので, 当該学位論文に関連した学術論文を本学会の学術セッションで発表を行っているか, または本学会機関誌『地域学研究』あるいはこれに準ずる専門誌に掲載または掲載可として受理されていることが条件となります (経過措置として, 今後 2 年間は, 平成 14 年度修了生にまで遡って表彰の対象とします)。なお, 年齢による制限はありません。

◇選考方法: 「日本地域学会 学会賞 (奨励賞・論文賞・功績賞) に関する規程」, 「日本地域学会著作賞に関する規程」, 「日本地域学会学会賞学位論文賞規程」に基づく選考委員会の審議による。決定次第, 受賞者には連絡します。

◇授賞式: 第 44 回年次大会における総会 (平成 19 年 10 月 7 日 (日) 九州大学) にてとりおこないます。

◇応募用紙の請求: 日本地域学会事務局まで賞の種別を明記してご請求下さい。

## X. 会員の移動

新入会員

正会員 57 名

浅井 真康 (筑波大学生命環境科学研究科大学院生)  
青木 慎 (中央大学大学院経済学研究科博士後期課程)  
石川 満寿夫 ((財) 北海道地域総合振興機構事業部長)  
氏原 岳人 (岡山大学環境学研究科)  
江口 雅之 (中央大学経済学研究科修士課程)  
應 江 黔 (岐阜大学地域科学部助教授)  
大内 雅浩 (中央大学大学院経済学研究科博士後期課程)  
大川 隆夫 (立命館大学経済学部助教授)  
太田 博三 (上智大学大学院地球環境学研究科後期博士課程)  
沖山 充 ((株) 現代文化研究所マーケティング研究室室長)  
小山田 晋 (東北大学大学院農学研究科環境経済学研究室大学院生)  
折原 森地 (中央大学大学院経済学研究科学生)  
影田 康隆 (広島県庁環境生活部県民文化室土地政策グループ主任)  
影山 絵理奈 (東京電力株式会社東京支店荻窪支社設備サービス G 副主任)  
金子 拓郎 (筑波大学生命環境科学研究科)  
川崎 恭実子 (筑波大学環境科学研究科学生)  
川島 和彦 (日本大学理工学部建築学科専任講師)  
韓 琳奕 (筑波大学環境科学研究科学生)  
韓 麗華 (名古屋大学大学院経済学研究科大学院生)  
祁 選軒 (筑波大学生命環境科学研究科修士)  
金 相奉 (向麗大学校公共行政学部助教授)  
金 相文 (筑波大学環境科学研究科)  
國崎 稔 (愛知大学経済学部助教授)  
藏田 幸三 (千葉商科大学商経学部非常勤講師)  
蔡 大鵬 (名古屋大学高等研究院助教授)  
謝 燕 (中央大学経済学研究科博士後期課程)  
孫 林 (上海社会科学院部門経済研究所副研究員)  
達 古拉 (新潟大学自然科学研究科学生)  
田家 邦明 (中央大学大学院経済研究科博士後期課程)  
田口 哲明 ((財) 石狩川振興財団理事長)  
棚橋 啓世 (東京経済大学経営学部教授)  
錢 学鵬 (立命館大学大学院環境システム工学博士二回生)  
張 彦 (筑波大学生命環境科学研究科大学院生)  
趙 惠敏 (筑波大学環境科学研究科学生)  
都築 栄司 (早稲田大学大学院経済学研究科博士前期課程)  
永井 研 (日本電気 (株) 海外キャリアソリューション事業企画部主任)  
永坂 正夫 (金沢星稜大学経済学部助教授)

中西 仁美 (豊橋技術科学大学建設工学系教務職員)  
中場 公教 (早稲田大学国際情報通信研究科)  
中村 有美子 (筑波大学大学院環境科学研究科修士課程大学院生)  
中村 亮 (福岡大学大学院経済学研究科博士課程前期)  
夏田 郁 (新日本監査法人ODA(政府開発援助金)部調査コンサルタント)  
西村 貢 (岐阜大学地域科学部教授)  
野村 良一 (立命館大学大学院経済学研究科)  
野呂 美紗子 ((社)北海道開発技術センター企画部地域政策研究室研究員)  
PARK Jungyoung (立命館大学政策科学研究科博士後期課程)  
幡谷 祐一 (茨城県信用組合理事長)  
花岡 千草 (岡山大学大学院自然科学研究科博士課程2回生)  
星上 幸良 (国際航業(株)防災情報部主任技師)  
元木 悠子 (慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科博士課程学生)  
森下 隆太 (筑波大学環境科学研究科)  
山田 文子 (筑波大学生命環境科学研究科大学院生)  
余川 雅彦 (北海道大学大学院工学研究科博士課程)  
横地 浩紀 (名古屋大学環境学研究科)  
米澤 勉 (北海道大学大学院工学研究科博士課程)  
呂 佳 (筑波大学生命環境科学研究科大学院生)  
若山 大樹 (秋田県立大学経営システム工学科助手)

#### 法人会員 2 団体

日本郵政公社郵政総合研究所  
株式会社SB サポート真鶴

#### 退会会員

正会員 29 名

安達 秀明

油川 洋

飯國 芳明

磯村 正雄

磯本 征雄

伊藤 滋

今津 佳都子

大原 武正

樺山 資秀

桜田 一之  
佐藤 祐一  
正徳 道弘  
杉野 学  
高田 邦道  
立川 賢二  
田中 忠治  
張 鍵  
唐 国興  
中川 三朗  
信國 眞載  
原 宜大  
八木 俊道  
山根 敬生  
米谷 一心  
和田 崇  
Bahadir Gultekin  
Gedik Ayse  
Thirumurthy, A.M.  
Usin Paulo

法人会員 1 団体  
花沢建設株式会社